

# 国語科学習指導案

指導者 教諭 及 川 千 暁

1 日 時 平成24年7月6日(金) 1校時

2 学 級 上田中学校3年2組 男子19名 女子11名 合計30名 南校舎3階3年2組教室

3 単 元 第5章 いにしへの心と語らう  
教 材 「夏草——『おくのほそ道』から」

4 主題について

第5章「いにしへの心と語らう」は、「古今和歌集 仮名序」「君待つと——『万葉・古今・新古今』」「夏草——『おくのほそ道』から」「古典の芸能」の、4つの教材により構成されているが、指導にあたってはそれぞれの教材を一つの単位としてとえらえた。【読むこと】の指導に関しては、中学2年の指導事項「ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。」を受け、中学3年の指導事項「ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。」をねらいとする。また、中学2年の指導事項「エ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」を受け、中学3年の指導事項「ウ 文章を読み比べるなどして構成や展開、表現の仕方について評価すること。」をねらいとする。

『おくのほそ道』は、芭蕉の心中において漂泊の思いが押さえがたく込み上げることを述べたあと、元禄二年三月二十七日の朝、春も終わろうとする江戸を出立するところから旅の記録が始まる。門弟の河合曾良と共に、奥州各地の歌枕を訪ね西行や能因の縁の地をたどる、行程二千四百キロ、日数にして百五十日の大旅行記であった。その文体は全体を通じて抑揚があり、漢語調の影響が強い。朗読によってその味わいを実感させ、その時代に生きた人々のものの見方や考え方や生き方に触れさせ、現代と共通するものを古典の中に発見させる学習につなげたい。また、教科書掲載の「1 漂泊の思い」「2 平泉」と他章段とを読み比べることによって、文体のもつ特徴やそれによって得られる効果などについて考えさせたい。

生徒は、中学校第1学年で『竹取物語』を、第2学年では『枕草子』『平家物語』を学習している。音読や暗唱といった活動が多いことや、文語文の持つリズムや力強さ、また作品がもつ内容そのもののおもしろさのために、古文が好きであるという生徒が多い。その一方で、言語事項に関して苦手意識をもっている生徒が多いという現状が見られる。

そこで、本単元の指導に当たっては、言語事項に対する苦手意識を取り払うべく、古文学習の基礎・基本となる事項を整理し「学習の手順」として示すことで、生徒一人一人に作業としてまた技術として定着させたい。また、「学習の手順」に従って本文の読み取りにあたることを目的を持って繰り返し読むことになり、内容理解につながるということを実感させたい。なお、補助資料として、教科書教材の外から原文の一部(『二十四 松島湾』)を指導過程に用いるが、文語文に読み慣れるための補助と、学習の整理のために利用するものである。また、本時の指導に当たっては、文体の特徴に特化するためはじめから口語訳を与え、音読を取り入れることによって内容理解を助けたいと考える。

5 指導と評価の計画(別紙)

6 本時の達成目標

関心・意欲・態度	・意欲的に『おくのほそ道』を読み、表現の特徴をつかもうとしている。
読む能力	・文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読んでいる。(読ア) ・文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価している。(読ウ) ＜生徒の記述例＞ ・『『おくのほそ道』は、教科書以外の場面でも対句法や漢語調の言い回しを使っていて、目の前の光景を印象的に表現できるということがわかった。』 ・『『おくのほそ道』は、対句法があつて分かりやすい、漢語調の言い回しがあつてリズムがよい、比喩があつて想像しやすい、といった特徴のせいで現代まで語り継がれているのだと思う。』
言語についての知識・理解・技能	・対句的な表現や漢文調の言い回しなど、表現の特徴に注意し、格調高い文章を読み味わい、それらの効果について自分の意見をまとめている。

## 7 本時の指導構想

### (1)「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は、評価規準の「読む能力」の「文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読んでいる」を主にねらったものである。

- ①【説明する】…「表現のしかたや文体の特徴に注意すると、作品を読み味わうことができる」ということを、紙板書を用いて説明する。
- ②【理解の確認】…生徒どうしの説明活動を取り入れる。教科書に取り上げられている「1 (漂白の思い)」「2 (平泉)」のどこに対句が見られ、漢文調の言い回しが見られ、比喩が見られるのか、隣同士で指摘させることを通して、理解状況をモニタリングする。かかわり合いを通して、不十分の理解を表出させ、修正を図りたい。
- ③【理解深化】…「二十四 松島」を読み、「『1』『2』と『二十四 松島』を読み比べて、『おくのほそ道』が今に残る理由を探る——文章のおもしろさに迫る」という理解深化課題に取り組ませる。ここでは、教科書掲載部分である「1 (漂白の思い)」「2 (平泉)」と、「二十四 松島」とを比べながら、同じところ・似ているところ、異なるところ文体の特徴を挙げ、その効果として考えられることをまとめさせる。それをもとに国語班学習・全体交流を行い、読み手としての様々な考えに触れさせた後、最終的に自分の言葉でまとめさせる。
- ④【自己評価活動】…『おくのほそ道』が読者を意識して書かれている点をおさえ、目の前の光景やそのすばらしさを分かりやすく伝えるために対句や比喩を用い、また文章の調子を整え文章に力強さや歯切れ良さを与えるために漢文調の言い回しを用いていること、このほかの部分も読んでみたいということなどを記述できるようになってほしい。

### (2)「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の2点である。

1点目は、「理解深化」段階の、文体におけるそれぞれの表現の特徴について、その効果を自分の言葉でまとめる活動。

2点目は、同じく「理解深化」段階の、『おくのほそ道』が現代まで語り継がれる理由を文章でまとめる活動である。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
説明する 2分	1. 前時までの復習をする。 2. 文章のよさをはかる観点として、表現のしかたや文体の特徴に注意することが有効であることを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">表現のしかたや文体の特徴に注意すると作品を読み味わうことができる。</div>			2 紙板書 2 ワークシート
理解の確認 3分	3. 教科書の「1」「2」では、表現のしかたの工夫や文体の特徴が、どこにどう見られるかを確認する。	・ 対句、漢文調の言い回し、比喩が用いられていることを確認した後、それぞれどこに見られるのか隣どうして指摘し合い確認させる。その後全体で声に出して確認する。		
理解の深化 35分	4. 理解深化課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">「1」「2」と「松島」を読み比べて、『おくのほそ道』が今に残る理由を探る。 ——文章のおもしろさに迫る</div>			
	5. 資料「二十四 松島」を音読する。 6. 資料「二十四 松島」の読み取りに当たる。	・ 文節の区切り等、自分で考えながら練習させ、その後全体で読み方を確認し、繰り返し音読させる。	5. 【読むこと ア】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">・ 古文の仮名遣いや文末の言葉遣いの違い、現代では使われない言葉や意味の違いに注意して音読している。</div> 《観察・ワークシートの記述》 A 自分で音読できる。 C 範読に合わせて音読させる。	
	7. 文章のおもしろさについて吟味する。 (1) 「二十四 松島」が教科書掲載部分と似ているところや同じところに着目する。 (2) その効果を考える。 〈個〉 〈グループ〉 〈全体〉 〈個〉	7. (1) 学習の手順として扱ってきた項目が共通点であり文体の特徴であることに気付かせる。 (2) 自分が内容を読み取るときに、対句法や漢文調の言い回し、比喩があることによって、どんなメリットがあったかを想起させたい。	7. 【読むこと ウ】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">・ 文章の構成や展開、表現のしかたについて、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。</div> 《観察・ワークシートの記述》 A 対句法、漢文調の言い回し、比喩の効果を説明している。 C その表現技法が用いられていない場合と比較させる	
自己評価活動 10分	8. 自己評価する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">・対句法があることによって、目に見える景色をリズムよく言葉にできていることがわかった。 ・漢文調の表現で、文体が引き締まった感じになり、短い文でたくさんの内容を表現できているようだ。 ・比喩を用いて、目の前に見えるものを何かにたとえて分かりやすく伝えようとしている。 ・俳句を読むまでの出来事や心の動きが簡潔に書かれている「歌物語」なのだなあと考えた。ほかの章段でも同じようになっているのか、読んで確かめたい。</div>			
	9. 次時の学習内容を知る。	・ 次時の学習内容を予告し、ワークシートを回収する。		

3 年 国 語		単元名 「夏草——『おくのほそ道』から」		総時間	5 時間扱い
学習指導要領の指導事項				単元の目標	
<p>【読むこと ア】 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。                  【読むこと ウ】 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。                  【伝国 ア】 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。</p>				<p>○ 歴史的背景を想像しながら『おくのほそ道』を読み、作者のものの見方や感じ方を良い取り、自分の考えをもつことができる。                  ○ 語句の効果的な使い方や表現のしかた、文体の特徴に注意して読み味わい、古典に親しむことができる。</p>	
国語への関心・意欲・態度		読む能力		言語についての知識・理解	
関① 古文を読んで、表現や文体の特徴について考えたり、筆者のものの見方・考え方を読み取ったりして、語感を磨こうとしている。		読① 古文を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。 読② 語句の効果的な使い方や表現のしかた、文体の特徴に注意して読んでいる。		言① 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。	
時	主な学習活動	おおむね満足(B)	十分満足(A)	評価事例	
1	・『おくのほそ道』全体の概要や、松尾芭蕉について知る。地の文と俳句の組み合わせに注意しながら全文を朗読し、学習の見直しをもつ。	関① 古文特有の言い回しに注意して読んでいる。 言① 歴史的背景などに注意し古文を読み、その世界に親しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対句法や漢文調の言い回しによりできたリズムに気を付けながら音読している。</li> <li>あらましを捉えて、芭蕉の生き方や『おくのほそ道』の内容に踏み込んでいる。</li> </ul>	<b>4 『おくのほそ道』の他章段を読み、文体の特徴とその効果について考えをまとめる場</b> (読② 学習シート) 『おくのほそ道』他章段(二十四 松島)を読み、文体の特徴や表現上の工夫に着目し、その効果を考え、表現しているかどうかを評価対象とする。	
2	・「1」について、口語訳や脚注を参考に、おおよその内容をとらえることができる。	関① 古文特有の言い回しに注意して読んでいる。 読① 文章や俳句に表れている芭蕉の思いを読み取りまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対句法や漢文調の言い回しによりできたリズムに気を付けながら音読している。</li> <li>文章や俳句に表れている芭蕉の思いを読み取り、自分の感想と合わせて書いている。</li> </ul>	■おおむね満足 (B) ・対句法があることによって、目に見える景色をリズムよく言葉にできていることがわかった。 ・漢文調の言い回しで、文体が引き締まった感じになり、短い文でたくさんの内容を表現できているようだ。 ・比喩を用いて、目の前に見えるものを何かにたとえて分かりやすく伝えようとしている。 ・俳句を読むまでの出来事や心の動きが簡潔に書かれていて、最後に俳句で締めくくる「歌物語」なのだった。	
3	・「2」について、口語訳や脚注を参考に、おおよその内容をとらえることができる。	関① 古文特有の言い回しに注意して読んでいる。 読① 文章や俳句に表れている芭蕉の思いを読み取りまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対句法や漢文調の言い回しによりできたリズムに気を付けながら音読している。</li> <li>文章や俳句に表れる芭蕉の思いを読み取り、自分の感想と合わせて書いている。</li> </ul>	■十分満足 (A) ・自分のためだけの記録でなく、読者を意識して書かれていたことが分かった。 ・ほかの章段でも対句法や漢文調の言い回しが同じように使われているのにならぬのか、読んで確かめたい。 ・芭蕉は旅に死んだ中国の李白や杜甫に憧れていたから、漢文調の言い回しを多く使ったのではないか。 ・教科書や松島のほかに、どんな場面でどんな比喩が使われていたのか読んで探してみたい。	
4 本時	・資料(『二十四 松島』)を音読し、『おくのほそ道』の文体の特徴とその効果について考える。	関① 古文特有の言い回しに注意して読んでいる。 読② 語句の効果的な使い方や表現のしかた、文体の特徴に注意して読んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対句法や漢文調の言い回しによりできたリズムに気を付けながら音読している。</li> <li>対句法や漢文調の言い回しなどの具体的な効果を説明できる。</li> </ul>	資料をもとに、これまでの学習と関連付けて、文体の特徴とその効果について説明している。	
5	・資料(『十一 清水流るる柳陰』『三十七 象潟』『四十二 小松』)を音読し、芭蕉がそこで伝えたかったことについて考える。	関① 古文特有の言い回しに注意して読んでいる。 読① 古文を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対句法や漢文調の言い回しによりできたリズムに気を付けながら音読している。</li> <li>文章や俳句にあらわれている芭蕉の思いについて、自分の感想や考えを根拠を示してまとめている。</li> </ul>	【C：指導の手立て】 資料から表現の特徴を探しだすことが困難な生徒に対しては、資料を読む視点を示して対句法を見つけさせたり、それを声に出して読むことでリズムがよくなることに気づかせたりして学習を支援する。	